



## 日本語能力試験（JLPT） 受験応募者数が初めて100万人を突破

国際交流基金（ジャパンファウンデーション）は、日本語を母語としない人の日本語能力を測定し、認定する最大規模の試験として1984年から「日本語能力試験（JLPT）」を実施しています。同試験は年に2回実施され、今年（2017年）は12月3日（日）に、海外76の国・地域、226都市、日本国内47都道府県を会場として、第2回目の試験が実施されます。

このたび、同試験の受験応募者の数がまとまり、7月実施の第1回との合計で、国内外で初めて年間の応募者数が100万人を突破した（102万5,435人）ことをお知らせします。

応募者数が増加している背景として、特に海外において顕著な伸びがみられ、最大規模の試験実施国である中国、韓国をはじめ東アジア地域で例年以上に増加したこと（13%増加）、東南アジアや南アジアで引き続き目覚ましい増加が見られ（東南アジアが20%、南アジアが24%増加）、各地域における日本語学習への関心の高さが伺えます。

### ■2017年度 日本語能力試験 概要（第1回+第2回合計）

【応募者数】 102万5,435人（海外約69万2千人／日本国内約33万3千人）

<第1回試験分> 約46万6千人（海外約31万4千人／日本国内約15万2千人）

<第2回試験分> 約55万9千人（海外約37万8千人／日本国内約18万1千人）

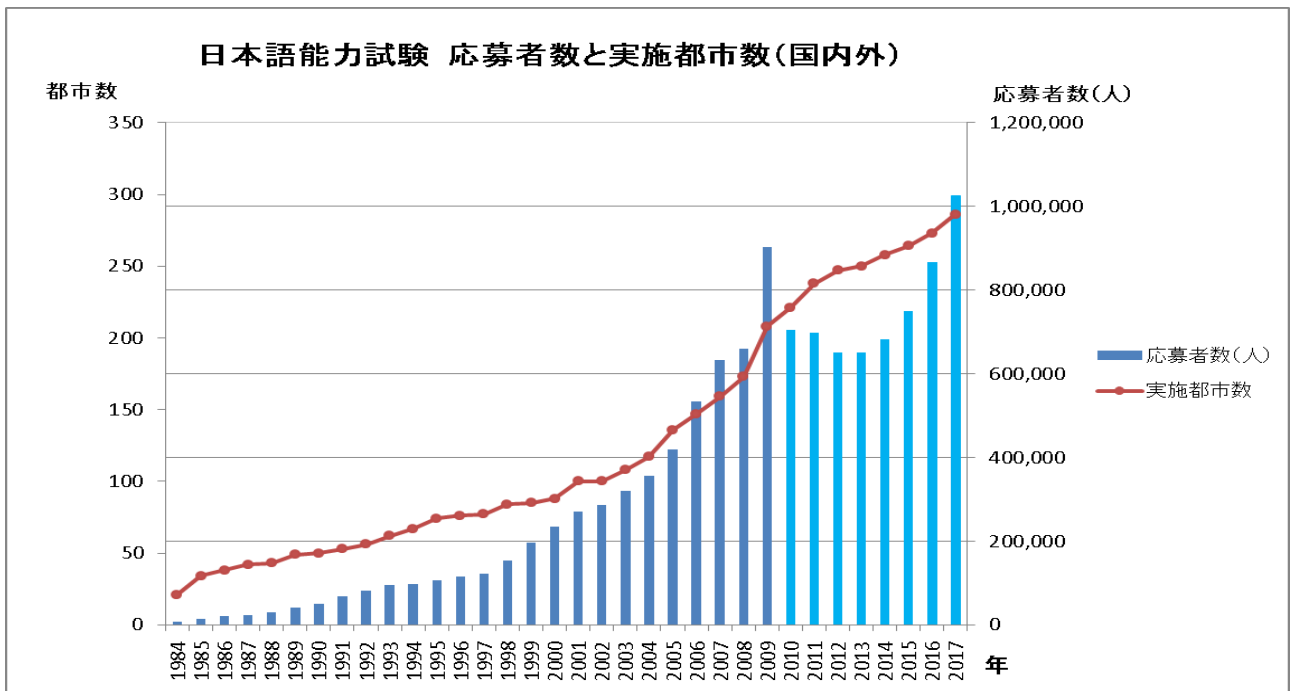
※前年度から約15万5千人（18%）増加。2016年度の合計は約87万人（うち海外約60万人）。

※国際交流基金が海外分を、公益財団法人日本国際教育支援協会が日本国内分を実施。

【実施地数】 海外80カ国・地域・239都市、国内47都道府県

【海外応募者数上位国・地域】 中国、韓国、台湾

【海外応募者数上位地域】 東アジア、東南アジア、南アジア



※2010年より新試験制度を導入。2009年は、試験実施の年2回化を開始し、旧試験最終年であることで大幅な伸びがあった。

主催者・本事業に関するお問い合わせ： 国際交流基金 日本語試験センター（担当：安藤）

Tel: 03-5367-1021 / E-mail: jlptinfo@jpf.go.jp

取材に関するお問い合わせ： 国際交流基金 コミュニケーションセンター（担当：二村、熊倉）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044 / E-mail: press@jpf.go.jp

■試験 受験者の内訳（第1回と第2回の合計）

	国・地域		応募者数(人)	前年比増加率
応募者数上位国・地域	1位	中国※	266,257	14.9%
	2位	韓国	90,319	14.4%
	3位	台湾	86,058	7.3%
応募者数上位地域	1位	東アジア	444,901	13.3%
	2位	東南アジア	179,589	20.3%
	3位	南アジア	28,836	23.9%
その他、増加率の高い国	ミャンマー		21,921	67.3%
	ベトナム		85,941	23.5%
	フィリピン		14,062	21%

※香港・マカオを含む。

■2017年第2回（12月）日本語能力試験の概要

【実施日】 2017年12月3日（日）

【実施都市】 海外76の国・地域、226都市、日本国内47都道府県

【実施レベル】 N1～N5の5レベル（N1が最も難易度の高いレベル）

※レベル毎の認定（合格）の目安および詳細は、ウェブサイト（<http://www.jlpt.jp/>）をご覧ください。

■合格者による試験結果の活用例

- ・ 「高度人材に対するポイント制による出入国管理上の優遇制度」でのポイント付与（平成29年4月よりN1に加え、N2がポイント付与の対象に）
- ・ 厚生労働省所轄の医師国家試験、准看護師試験等の受験資格認定
- ・ EPA（経済連携協定）に基づく看護師・介護福祉士候補者選定の条件（インドネシア、フィリピン、ベトナム）